

令和6年度

広報広聴委員会行政視察報告書

☆ 視察日程

令和6年11月6日（水）～7日（木）

☆ 視察先

11月6日 京都府議会

11月7日 三重県伊勢市議会

☆ 視察参加者

【委員】	委員長	山根	栄子
	副委員長	柳瀬	秀明
	委員	木原	愛子
	委員	近藤	康夫
	委員	三浦	徹也
	委員	森	良介

【随 行】	事務局	古田	真也
-------	-----	----	----

目 次

1	京都府議会	1
2	三重県伊勢市議会	4
3	視察を終えて（各委員の所感）	6

京都府議会

京都府

- 1 視察日時 令和6年11月6日（水）
午後1時30分～4時
- 2 視察事項 『広報広聴の取り組みについて』



- 3 視察の概要
京都府議会の広報・広聴について
 - 1 目的
より開かれた議会の実現を目指し、議会の広報・広聴の充実に努める。
 - 2 広報・広聴の取組
(1) 広報広聴会議
開かれた府議会を目指して府民への説明責任を果たしていくため、府議会の広報・広聴活動に関する協議・検討機関として、平成24年5月「広報広聴会議」を設置。

議会広報紙やテレビ広報番組の企画・編集など、各会派選出の委員6名で年十数回の会議を開催。

(2) 広報

議会広報紙 平成25年5月「京都府議会だより」(A4判4ページ)創刊。年5回。

テレビ広報番組 令和4年から「ようこそ京都府議会」(KBS京都テレビ)5分番組：年24回、15分番組：年2回。

議会テレビ中継 昭和44年から定例会代表質問(2日間)、予算・決算特別委員会の総括質疑(各1日)(KBS京都テレビで生中継)

インターネット中継 平成17年2月開始

ホームページ 平成10年8月開設

公式SNS 平成29年11月府議会公式SNS(X)開始

議長記者会見 平成25年8月から毎定例会閉会後に議長記者会見実施。YouTube配信。

「京都府議会のしおり」及び子ども版を作成

(3) 広聴

ホームページ メールでの提案・意見受付(平成16年7月)

議会棟ロビー 提案ボックス設置(平成16年7月)

出前議会 平成22年1月開始

(4) その他

本会議の議会棟以外での開催

平成28年9月定例会 舞鶴市総合文化会館(舞鶴市)

平成30年9月定例会 けいはんなプラザ(精華町)

若者参加型の広報広聴活動

大学生等と議員の座談会 平成28年度から開始(KBS京都で放映)

出前高校生議会 平成30年度から府内高校に出向き意見交換

子ども議会 平成19年度から執行部と共催で小学生5,6年による模擬議会

議場見学

令和6年度から府議会議員が議場を紹介する「おこしやす来て見て話そう京都府議会」を実施

傍聴者手話通訳 平成18年12月開始

託児サービス 平成28年6月開始

UDトーク 平成29年8月導入

4 主な質疑応答

Q. 毎年、府内高校や特別支援学校を対象に開催校へ議員が派遣されているが、議員との交流を通してどのような感想または影響を与えているのか。

A. 府議会や議員を身近に感じて貰っている。交流を通して「しっかり意見を聞いてくれた」「政治のイメージが変わった」など開かれた議会が実現されている。

Q. 大学生との座談会、出前高校生議会、子ども議会などを開催しているが、個々の意見交換などはいつどの様に行われているのか。

A. 座談会や出前議会の準備の合間の隙間時間が交流の大切な時間であり、その時間を使い様々な個別の意見交換ができる。

Q. 議員と高校生との交流会においてどの様な要望があり、交流会を通して実現したことは。

A. 交流会を通して実現したことは無い。府議会としてはあくまでも交流会を通して、府議会や議員活動に興味をもってもらう事に重点を置いている。



伊勢市議会

三重県伊勢市

- 1 視察日時 令和6年11月7日（木）
午前10時30分～12時
- 2 視察事項 高校生議会の取組について



3 視察の概要

（1）高校生議会の趣旨

市民に開かれた議会を目指すとともに、議会活動を広く理解していただけるよう議会の活性化に取り組んでいる。その取り組み及び主権者教育の一環として、未来を担う高校生が模擬議会を体験することにより、市政や議会など政治に関心を深めていただくことを目的に開催し、今後の市政の参考とするもの。

（2）高校生議会の対象・内容

対象

市内の高等学校9校（県立6校、私立3校）に在学の生徒を募集。

2～3人を1グループとし、9グループ程度。

内容

・高校生が議員役となり、伊勢市における疑問点やこれからの伊勢市に望むことを高校生の視点で質問を行う。

- ・市議会議員は市職員役を担い、質問に対する答弁者となる。
- ・議長役については、参加生徒から希望者を募り決定する。
- ・質問は1グループ問とし、質問・答弁を含めて10分以内、時間内であれば再質問を認める。

(3) これまでの開催状況

- 第1回 令和元年8月8日
- 第2回 令和4年8月10日
- 第3回 令和5年8月10日
- 第4回 令和6年8月7日

4 主な質疑応答

Q. 高校生議会での質問に対して、議会はどのように動いたのか。

A. 高校生からの質問で様々な提案をいただき、実施後に市長に対して情報提供を行っている。ただし、実現が困難な事例が多く、必ずしも施策の実現には結びついていない。なお、市長も高校生議会当日には出席をいただいている。

Q. 高校生議会での提案により実現した施策はあるのか。予算化された実例を教示いただきたい。

A. 現時点で予算化された実例はないが、高校からの正門前の道路整備について、危険箇所があり、高校生からの要望に基づき白線を引くなどの対応をした実例がある。

Q. 議会は執行権が無いため、高校生からの質問に対し予算執行されていない事項に対しては不確実な答弁はできない。その為質問内容を高校生議会の事前に聞いて、議員が答弁に望むと出来レースのようになってしまい緊張感を欠く事になりかねない。その辺りの対応をどのように行っているか。

A. 高校生からの質問にしっかり答弁するために事前の聞き取りを行っている。ご質問にあるように出来レースにならないよう注意し、尚且つ適正な答弁が出来るように努めている。

視察を終えて

委員 長 山 根 栄 子

☆ 京都府議会視察

「出前高校生議会の取り組みについて」

京都府議会広報広聴の取組の説明を受けた。議長の諮問機関であるこの委員会では広報では議会だより、テレビ広報番組、議会テレビ、インターネット中継等の取組がされていた。

広聴においては府民の多様な意見を把握する場として出前議会を実施しその一環として、府議会を知ってもらう事を目的とした、高校生との意見交換会が平成30年より行われており近年の取り組みについて説明を受けた。令和6年においては8校程度の参加募集を教育委員会を通じて行い5校の参加15名が参加し、意見交換が行われていた。また大学生を対象に議員との座談会が実施されており、議会の仕組み等を伝え若者に府議会や府政への理解と感心を高める場として、大学生から率直な質問や意見を受けそれに議員が答えるといった取り組みが行われていた。

この若者達の声を集約しどう次につなげるかが課題の下松市広報広聴委員会としては、実際対応されている議員の声も聞いてみたかったが、今回は実施内容実施のみにとどまった所は若干の消化不良ではあった。しかし意見交換の内容は多岐にわたり本市においても参考にすべき点ではないかと感じた。

☆ 伊勢市議会

「高校生議会の取り組みについて」

伊勢市議会は常任委員会3つ以外に特別委員会として、議会のあり方調査特別委員会がありその中に政策等検討分科会、広報広聴検討分科会、議会ICT検討分科会の3分科会を設けている。

当日はその中の一つ広報広聴検討分科会の会長、副会長、議長、事務局長が本市の視察に対応して下さり、高校生議会への取り組みについて答弁をいただいた。

伊勢市議会も市民に開かれた議会を目指し、議会活動を広く理解していただけるよう議会の活性化を目的として高校生議会を開催している。始まりは平成30年度に三重県議会が実施する「みえ高校生県議会」を傍聴しその手法を参考として令和元年より実施したことが始まりであり、今年度で4回目の取り組みであった。本市は平成27年2015年からコロナ禍では2度の中止はあったものの取り組みとしては本市の方が長く色々な角度からその都度趣向を変えて高校生の本音を引き出し、なおかつ議員との意見交換を行

い、少しでも議会と学生の距離を近づける取組をおこなってきたが、高校生の貴重なご意見をどう現実化させより、充実した取り組みをする事が出来るのか。その課題に対し伊勢市議会ではどう取り組まれているのか本音の所をぶつけてみた。

伊勢市議会も本市と同様に執行部を議場に入れず、市長は挨拶の為同席してはいるものの答弁対応はあくまでも議員が行うと言うスタンスであった。その為行政が実施していない事業において議員が先行して自分の感情や思いだけで発言する事は当然できず、高校生への問いに対し事前に聞き取りが行われ、尚且つ執行部との答弁のすり合わせが行われており、ともすれば出来レースともなりかねない議場の進行をうまくまとめ、高校生の問いにしっかりと答弁できる仕組みを作り上げていた。

ここで特筆すべきは、この高校生議会の質問内容は「第3次伊勢市総合計画」にある「伊勢市の分野別取り組み一覧」を参考に（分野1 自治・人権・文化）の中の目指す姿として、市民が自分たちのまちのことを考え、行動できるまち ・施策1 地域コミュニティ より）高校生の視点で、現在の疑問点やこれからの伊勢市に望む事を質問内容としている点である。

また2日にかけてこの取り組みは実施されている。1日目は本会議場での質問の事前準備、リハーサルを行いつつ、高校生との個人意見交換の時間をとっており、2日目に本会議場でも高校生議会の開催を実施し、令和6年には市内9校の高校～計22名の学生が参加し、議論を交わしていた。

しかし最後はやはり高校生の質問に対し議員の答弁には限界がある、という双方同様の問題点を抱えているという結論に至った。今後も情報共有をおこない、更に高校生から頂いた貴重なご意見を生かす事のできる、取り組みとなるよう今後も意見交流を行っていきたいと感じた。

副委員長 柳 瀬 秀 明

☆ 京都府京都市(京都府議会)

京都府議会では、事務局より広報広聴の取組について「出前高校生議会」「大学生と府議会議員の座談会」「おこしやす来て見て話そう京都府議会」等縷々説明があり、その後全般的に質疑応答させていただきました。

「開かれた議会の取組み」については、京都府は南北に広がるため、中心部から離れた地域に出向き議会棟以外での本会議を開催されています。準備等大変だとは思いますが、府民に寄り添う議会の強い姿勢を感じます。

「出前高校生議会」については、平成 29 年より、「選挙権の引き下げに
応じて、若者が府議会を身近なものにする広報広聴活動」として、高校生等
が府議会や議員との直接の関わり合いを通じて、府議会について興味を持っ
きかけとして広報広聴活動を実施しております。毎年、府内高校や特別支
援学校を対象に 8 校程度開催されております。開催校へ議員が派遣されます。
出前議会の取り決めとして、開催市町の選出以外の議員を派遣して、更に政
党色は出さないと原則をしており公平性を保っております。基本的には議員
との意見交換が主で、議員との交流を通して府議会や議員を身近に感じて貰
っているとのことで、交流を通して「しっかり意見を聞いてくれた」「政治
のイメージが変わった」など概ね好評のようです。本市も同様に、議員との
交流を通して市政や議会を身近に感じて貰うことが第一だと感じました。

「大学生との座談会」については、平成 28 年から大学生と府議会議員(広
報広聴会議委員)が意見交換を実施しております。毎年議会棟や大学へ広報
広聴会議委員が出かけてテーマに沿って意見交換を行っております。大学生
からの意見として、若者はテレビよりもインターネットが中心なので、議会
や議員活動をもっと SNS を活用して紹介してほしい等あったようです。本
市も開かれた議会として、若者に関心を持っていただけるよう SNS を活用
した取組が必要かと感じました。

「おこしやす 来てみて話そう 京都府議会」については、今年度からの
取組みで、11 月 24 日開催とのことです。今回は府内の小学 6 年生を対象
に 100 名程度募集しており、議場見学に併せて、議員が直接議会や議場を
紹介し、府議会や議員の役割について理解を深める狙いです。特に京都府議
会では、議場傍聴者や見学者用の「京都府議会のしおり」を作成され、小学
生高学年向きの子供版を作成されております。本市におきましても今後「下
松市議会のしおり」を作成して、議場見学や高校生議会にも活用出来たらと
思いました。

☆ 三重県伊勢市(伊勢市議会)

伊勢市につきましては、高校生議会の先進的取組みについて視察させて
いただきました。

はじめに伊勢市の紹介があり、本市の約 2 倍の人口約 11 万 9 千人。伊
勢志摩国立公園の玄関口として、豊かな自然に恵まれ、「伊勢神宮」を擁す
る歴史と文化に富んだ名所・旧跡が多く、比較的温暖な気候に恵まれた気候
の都市です。環境的には下松市と似たところを感じました。

伊勢市の高校生議会開催の経緯について説明があり、伊勢市議会では、市
民に開かれた議会を目指し、議会活動を広く理解していただくため議会の活
性化に取り組んでおり、「みえ高校生県議会」を参考に、令和元年から伊勢

市独自の「高校生議会」を開催されているとのこと。高校生議会の趣旨として「伊勢市議会は、その取り組み及び主権者教育の一環として未来を担う高校生が模擬議会を体験することにより、市政や議会など政治に関心を深めて頂くことを目的に開催し、今後の市政の参考とするもの」として実施しております。

今年度も市内の９校が参加して開催されています。基本本市と同様に、各校がテーマを決めて議場での質問や議員との意見交換会等を行っております。特に本市との違いは、本番前に質問内容の通告を受け、事前に議員が執行部に打合せをされ答弁書を作成されている事。又、本番前の事前説明会やリハーサルを行い、さらに説明会で議員との交流会を持っている事。本番の議場においても生徒が議長を含めて議員役、議員が執行部役として、高校生が主体者として開催されているところが大変参考になりました。

今回の行政視察の総括として、伊勢市議会の議会改革の取組を参考にして、本市の高校生議会に活かし、広報広聴委員会として、さらに開かれた議会となるよう取組んで参りたいと思います。



委員 木原 愛子

☆京都府議会

内容「広報広聴の取り組みについて」

京都府議会の議場について

防災の取り組みが議場にてされており、各議員の座席と傍聴者席には折りたたみ防災ヘルメットが用意されていた。過去の災害の教訓を生かした取り組みで下松市も取り組む必要を感じた。

また京都府議会では高校生とは出前高校生議会と題し行われており、高校生だけでなく大学生とは、大学生と府議会議員の座談会というのを行われていた。下松市においてはお隣の周南市にある周南公立大学の大学生と同じような座談会が開けるのではないかと想像する。実現できるよう取り組んでみたいと思った。

そしてSNSを使った情報発信をされており、現在、下松市ではまだSNSを使った発信ができていないため大変参考になりました。

また議会棟入り口そばには議員一人一人の顔つき紹介が展示され京都府の地図で議員一人一人がどこの地域にお住いかがわかりやすい展示内容となっており議会へ来られた方々へ親切な展示だと感じこちらも参考になりました。

☆伊勢市議会

内容「高校生議会の取り組みについて」

伊勢市議会さんの高校生議会では市長が高校生議会の始まりに挨拶をされていたことに驚きました。伊勢市議会の議会についてはYouTubeにて配信されているため、高校生議会もYouTubeで見ることができるのですが伊勢市議会さんの説明の中でも市長挨拶について触れられており、市長へ広報広聴委員会がお声かけをし高校生議会では挨拶をされているとのことでした。下松市も高校生議会はコロナ明けから再開し今年行いましたが市長の挨拶はなかったのでぜひ次回は広報広聴委員会より市長にお声かけし下松市でもそれができるようにしたいと思いました。

そして、自分たちの議会のことを調査する「議会のあり方調査特別委員会」というのがあることに驚きました。

文字通り「議会のあり方調査」と。議会とは何なのか、議会はどうなのか、と考えることが出来る仕組みとなっており非常に勉強になりました。

学ぶことが沢山の伊勢市議会視察でした。

これを今後、下松市議会へも生かしてまいりたいと思います。

委員 近 藤 康 夫

☆ 京都府京都市(京都府議会)

まず、初めに驚いたのは、私たちの行政視察受け入れのための「資料の充実」の件である。資料１～４までに府議会の広報広聴活動がコンパクトにまとめられていた。

京都府の面積は広い。北部、舞鶴まで特急で約１時間４０分。南部、木津川市まで快速で約４５分。舞鶴市の文化ホールで本会議を２回実施したとの説明に驚く。出前高校生議会では、Ｈ３０～Ｒ５年度までの６年間で、参加生徒数１，４４１名、参加議員数は延べ２５５名という数字をみて徹底しているなと感じた。文化施策に関しては建仁寺で聞いたとの報告も刺激的だった。予定を約１時間超えての対応にただひたすら感謝のみである。（重要文化財旧府庁、旧府議会議事堂見学など）

☆ 三重県伊勢市(伊勢市議会)

伊勢市議会の広報広聴活動は、「議会のあり方調査特別委員会」の元で、企画調整部会のもと、３つの分科会の内のひとつであった。

政策等検討分科会、議会ＩＣＴ検討分科会と共に「議会のあり方」を探求していく考え方に、体系的に整理されていると思った。

高校生議会では、事前に「総合計画」にある「分野別取り組み一覧」等を渡し、これを参考に高校生の視点で現在の疑問点やこれからの市に望むことを求めている点が参考になった。又、当日の議長役（進行）も高校生が担当している点も参考になった。

委員 三 浦 徹 也

☆ 京都府議会『広報広聴の取り組みについて』

「選挙年齢の引下げ」このキーワードにより主権者教育の見直しが始まる。開かれた議会の取り組みとして、議会棟以外での本会議の開催。

議会、議員をより身近に感じてもらうため、大学生との座談会、出前高校生議会、子ども議会などを開催している。よりざっくばらんに話せるように議事録を作成しないとの事である。大学生にはより議会、議員の事を知ってもらうために「見せ方」など、今後必須課題となるであろう SNS の活用を教えてもらっているという。

「子ども版 京都府議会のしおり」の作成など、小学生にも議会、議員の役割をわかりやすく説明するなど、様々な取り組みをされている。

下松市においても SNS の活用や子ども版議会のしおりなど、早急に取り入れるべきものだと考える。

☆ 伊勢市議会『高校生議会の取り組みについて』

「第三次伊勢市総合計画」にある「伊勢市の分野別取り組み一覧」を参考に高校生の視点で、現在の疑問点やこれからの伊勢市に望むことを質問内容としている。

事前にもらった質問を担当課に確認、回答してもらい議員が執行部として答弁する。

数日前にリハーサルを行い、議場や議会の雰囲気にも慣れてもらい、議長も高校生が担う。

市長の挨拶もあり、議会だけの取り組みではなく、市としても協力的である。

下松市においてもテーマの決め方、より高校生に体験してもらうための取り組みなど吸収すべきことがたくさんあると感じた。

どちらの議会でも下松市でも、もっと身近に感じてもらうための「開かれた議会」、小学生から高校生までの「主権者教育」が重要だとは感じているが、どの形がより良いものなのか模索中である。全国の各自治体が取り組んでいるが、各々が感じている課題を少しずつでも解決に向かうことができればいいのではないかな。

この様に各議会の取り組みや課題を直接聞くことができるのは有意義なものだと考える。

委 員 森 良 介

☆ 京都府議会

高校生議会を開催するにあたり、検討委員会において、「高校生が、議会と議員に直接の関わり合いを通して、府議会に関心を高め、若者参加型の広報広聴活動をする」という主旨目的を明確にし、進めている。当市においてはそういった「あり方」というものを拝見したことがないと思う。進め方は、六名程度のグループに議員一名が付き、いくつかのテーマに沿って協議し、議員の裁量で答弁をする。事前の執行部とのやり取りはなく、参加高校生は終始、消化不良の中、終了することが想像できる。そのあたりを比較すると、当市の進行の方が綿密さを感じる。しかしながら、対象を高校生に限

定せず、小学生や、大学にまで巾を広げ、活動をしていることは参考になったし、アンケートも項目が多く今後につながる内容であった。

協議を通して、事務局側から多く聞かれたのが、「広報広聴の一環として」というワードだ。「主権者教育」と言わなかったのが印象的で、広報広聴の資料として、子ども版議会のしおりや、早くから、テレビ広報や、公式 SNS を活用し、若者向けに情報発信を開始していることは理解できたが、当市においては当てはまるのかどうかは、検討の余地がある。

☆ 伊勢市議会

伊勢市は人口、約十一万九千人と一市二町一村が合併した伊勢平野南端に位置した市である。

伊勢市においても主旨を明確にし、取り組んでいる中、伊勢市議会は、その取り組みを「主権者教育の一環」として市政や議会に関心をもって、深めていただくことを目的に開催するとあった。そのあたりは、議会は主権者教育をするところではなく、教育は学校教育の役目であると考え、個人的に相反した。

取り組みは、綿密に計画され、開催は生徒の負担を考え、夏休み開催とし、募集も春先から行われている。なるほど。テーマは、総合計画の中から分野別に選択する仕組みも参考になる。質問を事前に聞取り、執行部に調査聞取りをして後、答弁をする流れだ。生徒は、休み期間中もあり、リハーサルを経験して、本番に臨めるので、緊張感も拭える。当日は、市長も参加されるのも感心した。議会後のアンケートもしっかりとられていた。

京都府、伊勢市、当市においても、進行の仕方、準備の在り方の違いで出来上がりに差が出る事と、また、二の矢、三の矢に至っては、答弁に限界が生じ、答えに詰まり、広がりが無くなるといった悩みは同じ課題であった。

